東京旭川会
会報
ななかまど

第13回 総会・懇親会開かれる

東京旭川会の第十三回総会、懇親会は平成元年十月二十七日、東京・新宿の京王プラザホテル「花の間」で開催された。来賓として地元旭川から坂東徹市長、関根正次市議会議長、小桧山享市商工会議所会頭、金森耕造観光協会会長らはじめ故平岡敏男前会長夫人の美恵子さんらも顔を見せ、参加者二百三十人で賑わった。(詳細は2ページ)

第12号　1990年2月20日
発行　東京旭川会
東京都新宿区西新宿7-2-4 新宿喜楓ビル
東京美装興業株式会社内
TEL.(03)363—2721
編集　東京旭川会広報委員会

写真(上)ミス旭川が抽選，何が当たるか。(右)会場では旭川開基100年協賛の募金も行なわれた。(下)懇親会のアトラクション，フラダンスの熱演に拍手かっさい。

会場にも女性の風が…

懇親会には，ふるさとのゴショイモとカボチャも出ました。
坂東旭川市長もかけつけて，総会であいさつ。

総会・懇親会

一年ぶりの開催に盛り上がる

昨年は昭和天皇のご不例で中止となったため、二年振りの開催となり、定刻前午後五時頃から来場される方々が相次ぎ、久し振りの再会を懐しむ姿があちこちで見られた。

総会は大野武夫常任幹事の司会で午後六時開会。八木祐四郎会長が議長席について挨拶、ついで第一号議案（昭和六十三年度事業報告並びに決算報告）第二号議案（平成元年度事業計画並びに予算案）第三号議案（年会費改訂）第四号議案(役員改選)の審議に入った。第一号、第二号議案については桑本平八事務局長から決算(別掲)および予算の説明があり、この会計監査も監事の監査を終っている旨報告、満場一致で承認。ついで第三号議案に入り現在一千五百円の年会費を二千円に改訂の提案があり原案通り可決となった。このあと第四号議案の役員改選では八木会長の留任と決まった。

総会に続いて懇親会に移った。加藤桂子、伊藤英子の両常任幹事が司会、八木会長が挨拶。旭川市から同会長および矢野正康副会長にミス旭川の山口二葉、村[illegible]子両嬢から花束が贈呈された。このあと坂東市長から「今年の郷土訪問旅行には青少年を北海道の大自然の中で過ごすという素晴らしいプランを東京旭川会で樹てられ、とても良い体験をされました。旭川は今夏最高温度三十六度という気象台始って以来の暑さを記録して涼を求めて来た人々を驚ろかせました。平成二年は旭川村が誕生して百年を迎えるので、九月二十日に記念式典があるほか開基百年記念事業として、記念ホール、河川公園、嵐山公園整備、日本のまつり旭川、市民ふれ合いフェスティバルが計画され、またバーサースキー大会にはスウエーデン国王らが来旭して参加します。外国の国王が地方行事のために来日することは、かつて無いことである」と来年の記念行事の紹介をかねて挨拶を述べられた。続いて来賓、国会議員の紹介、乾盃の後、宴に入った。

総会パーティーのアトラクションとして会員の牧田逸子さんはじめ足立景子、大橋玲子、西田育子、橋本裕子ら五夫人によるハワイのフラ・ダンスが披露された。何度もリハーサルを重ねたらしくなかなか美事。盛んな拍手を浴びた。

●えっせい

ようこそ！グスタフ国王

八木祐四郎

いよいよ一九九〇年三月二十一日、スェーデン　の国王カール・グスタフ十六世を迎え「第十回旭川国際バーサー・スキー大会」が盛大に開幕される。国王一行は新東京国際空港(成田)に到着すると、直ちに旭川空港へ向われる予定と伺っている。一国の国王陛下が訪日して首都にとどまらずすぐ地方の都市にお出になるのはこれが初めてと聞いており、わが旭川にとっては大そう名誉のことであろうと考えている。

とくにこの年は、旭川開基百年に当り、数々の記念行事が目白押しの中で、国王のご来訪はまたとない最大の贈りものとなるに違いない。この機会に私とスウエーデンとの結びつきなどを述べさせていただこう。

私が最初スウェーデンを訪れたのは一九六三年で、この年、この国のファールンで、タッフェルト将軍、ウイルヘルムソン准将からスキーのバイアスロン競技を習得させていただき日本へ持ちかえった。その後、同国のモーラーに滞在するクロスカントリーの日本代表選手、松橋高司さんを訪ねるなど合計すると十二、三回、スウェーデンを訪れている。

この間、もっとも思い出に残るのは、一九七四年にファールンで開催されたノルディック世界選手権大会に日本代表選手団の監督として参加したおりのこと、まの国王が皇太子殿下の当時で大会場でお目にかかると、私に「一緒に走ろう」と気軽に声をかけられ、私は、女子5キロコースをご一緒に走りました。力強いストックでスキーの技術もなかなかだと拝見した。

この日の夜は、関係者一同が、皇太子殿下にお招きに預った。夕食会場の邸宅は御殿などという固苦しいものでなかった。ただ会場の邸宅に通じる雪の道の両側に明々と灯るキャンドルがずらっと約五百メートル続いていた。何と幻想的な美事さ。このキャンドルの列が長ければ長いほど賓客へ歓迎の意を表わしていると聞いた。

当夜は馳走もさることながら、帰りしなに皇太子殿下にお別れのご挨拶をすると、殿下は一人一人と固い握手を交わされ、香りの高い葉巻を一本ずつ贈って下さった。私はすっかり感激して、この葉巻を大事に日本へ持ち帰り、父親におみやげにしたのを覚えている。

もういうまでもなく「バーサー・スキー大会」はスウェーデン建国の父、バーサー国王の名に因んで開らかれたもので、かねて私が現地の様子を見聞してきて、坂東旭川市長にすすめたものである。こんど国王陛下を迎えわが故郷はどんなアサヒカワ・ホスピタルを発揮するのだろう。私が味わったキャンドルの行列は、風が強かろうから無理としても、どこかでペンシル型のカラー豆電燈でも一斉に振って歓迎し、雪国旭川の思い出にしてさしあげたらどんなものかと思ったりしている。国王陛下、雪国旭川へのお出をこころからお待ち申しております。(東京旭川会会長、全日本スキー連盟常務理事)

建築設計で活躍—林雅子さん

人(ひと)

女流建築家として数々の業績をあげている林雅子さんは旭川市生れ、道立旭川高女から日本女子大学家政学部生活芸術科で住居専攻。東京工業大学建築系研究生として清家清研究室に入る。ここで才能を開花させた。昭和三十一年、独立。三十三年には女性三人で林・山田・中原設計同人を設立した。その間、桑沢デザイン研究所、日本女子大、東大などの講師。

この人の作品はダイナミックでのびやかなことに定評がある。五十六年には、建築界の芥川賞に当る日本建築学会賞を受けている。授賞理由も「切れ味のよい部品加工と単純明快な表現、豪快な空間構成」というのだった。また同年、「ギャラリーをもつ家、雪囲いのある家など一連の住宅作品に対し、これも直木賞といわれる吉田五十八賞もとった。「雄こん豪快。スカッとした空間、きもちのよい家。落ちついた正統派」とのことである。

その他、住宅のほか、ヴィラ・イナワシロ、東京都中国留学生寮などを設計。著書に「こども室と遊び場」「農村のすまい」「障子の本」など。ご主人は東工大清家研究室で知り合った建築家で、二人の共同の処女作が新居だったという。アメリカ建築家協会名誉会員のほか、六十二年から六十四年まで日本建築学会理事を勤めた。

(須藤智恵子記)

族、敗残兵など含む）は約八万人を超え、その約一割が北海道に連れてこられました。樺戸、空知、釧路を合わせても収容能力がおいつかないので、いわゆる動く監獄といわれたタコ部屋に押し込められ、北海道開拓のいしずえにされたのです。明治二十三年、網走監獄を創設したその起りは中央道（現在の国道三十九号線）を開くことにありました。

重罪人ばかり全国から集められ、網走川に架けられた鏡橋を渡った囚人は、再び生きて帰れない、といわれたそうです。旭川、網走間はまだ人跡未踏の地です。明治二十四年七、八月は小雨が降り続いたため、食糧の補給もままならず、栄養不足と過労が重なって死者が続出しました。当時は奇病と思われた脚気が全身にあらわれたためでありました。その苦しさに堪えかねて脱走する囚徒もあとを絶ちませんでしたが、山の中では逃げおおせようもなく、やがて捕まり、斬殺のみせしめにあいました。病いに斃れたものはそのまま道端に棄ておかれ、風雨にさらされ、百体程になると、まとめて道端に葬られました。それから長い間生い繁る雑草におおわれていた卒塔婆が昭和三十三年、地元民の手で発堀され、白骨化した遺体は丁重に火葬にされました。いましめられていた腰、足等の鎖も鎖塚に収められました。五年前に新築された現在の網走刑務所には、いまでは年老いた囚人などがヤバの風の冷たさに、わざと盗みを働いて舞い戻ってくるそうです。

五寸釘の虎造　二重施錠の扉、床板、天井板の中は十五センチ間隔の太い柱が組み込まれ、壁や板をはがしても容易に脱出出来ないはずでしたが、ここに一人の脱走犯、虎造がいました。彼はほかの監獄で二度の脱走に成功し、もう網走しかないというわけで送られて来たのです。

頭の良い彼は、毎朝の味噌汁を窓枠の鉄の桟と、手足の錠に少しずつかけてさびさせ、とうとう窓を破って天井の梁を伝わって脱出に成功しました。

飛び下りた時、足の甲に五寸釘をさしてしまいしかしそのまま夜の闇にまぎれ込んでしまいました。二年半後再逮捕されましたが、時の所長が情のあつい人であったため、この所長に迷惑はかけられないと、その後は模範囚で刑期を終え、以後自分の数奇な運命をテーマに一座を組んで上演して歩いたそうです。

天都山から　天の都にのぼるような心地がするところから天都山と名付けられた標高二百七メートルの山。山頂からは、オホーツク海、知床連峰、大雪の山並みまで三百六十度視界がひらけて見える山でした。頂上にはオホーツク流氷館があり、氷に閉ざされた部屋の中は零下四十度を越える寒さとか。

さて今夜の宿泊はホテル網走湖荘。北海道の豊饒な海の幸、ことにカニはもう本当にたくさん、というほど食膳にのぼりました。舟盛りのお刺身も見事で、雲丹、蟹、甘蝦、鯛、まぐろ、帆立貝ともう食べ切れない位。本場のビールを一気に呑み干しました。宴会では自己紹介を兼ねて最年長の村井与吉さんから。

村井与吉さん「私は明治四十三年一月六日生まれで満八十歳になります。旭川新橋のたもと、ウタリ集落の入口で生まれました。小学校ではウタリの人達とは一諸に勉強しませんでしたが、高等小学校では共に学びました。旭川商業に進み、その後上京し合同焼酎に入社、谷武雄さんが先輩だったので旭川会を作ろうということになり平岡敏男さんらと語らってこの会を創立したのです。」

関晃さん「今まで三回、参加しましたが、今回が一番良いように思います。限られた予算で大変なことでしょうが、今回は旭川市役所等から力添えがあったとも聞いております。」

山下喜代次さん「私は千葉県の生まれで旭川出身ではないのですが、吉田敏明さんのご縁で毎回出席させていただいております。一回目は礼文島、二回目は積丹、三回目は知床と、北海道の良さ、ひいては日本の良さをしみじみ感じていました」

快晴、午前九時、二日目の旅立ちです。網走水族館を見物しました。オホーツクの海の、のぞき窓です。北の海の珍しい生きものがいっぱい。次の網走原生花園では　はっきりいって期待はずれ、残りの花が一輪、二輪。淋しく咲いているだけでした。

知床観光センターでまたまた蟹の昼食をいただき、お土産を買ったりまとめて送ったりして、一時三十分とうとう念願の知床の岬に到着しました。ウトロ港から船に乗るのです。観光案内には地の果てと書いてありますが、それには少し賑やか過ぎるように思いました。藍と緑をねりまぜた深い深い海の色。この紺碧の海に白い航跡をしるしながら船は進みます。ゴメの群れが、舞い上り走り抜け引返し乱舞して、さながら人と島との饗宴をうたいながら私達の船に従って来ます。二時間足らずの周遊でしたがすっかり満足して次は知床五湖へ。さやさやと風の渡る木々の合い間をぬって散策路をたどって行くと、ひっそりと静かな佇まいを見せて最初の湖が私達を迎えてくれました。四時過ぎには知床第一ホテルに着いて温泉につかりました。

帰りのオホーツク海は鉛色です。オシンコシンの滝をもう一度バスの中から眺め、降ったり止んだりの雨の中を一路旭川空港へ。

（福原博子記）

第七回郷土訪問の旅参加者

（敬称略、順不同）

御手洗正夫、御手洗節、大城栄子、竹原茂雄、落合隆明、落合サヨ子、花輪元治、武田陽子、伊藤英子、福原博子、折登建憲、西田育子、須藤智恵子、本間敏弘、本間富美子、古川勝吉、亀井歓一、亀井さかえ、森基、森弘子、中山豊昭、中山多美子、伊塚清、伊塚幸子、伊塚幸絵、村井与吉、中村圭一、中村寿美子、福居信一、福居典子、福居信浩、福居沙織、加藤民次郎、片上照子、富田須美子、田中館一好、田中館和子、田中館久志、山下喜代次、山下華子、山下三佳子、増宮建三、増宮和枝、萩野敏夫、萩野みどり、小西孝一、小西和子、中島スミ子、林茂、廣瀬美津子、穴水鈴子、荒井知子、鈴木与之助、鈴木昌子、白川貴孝、笠原貞夫、柴田静子、関晃、吉田浩二、小須田富男、三浦久子、山田勝久、杉本哲男、浜名武治、廣瀬ヨシ子、阪本ケイ子、寺田慧美子、園城つる子、坂東幸子、坂東勝利、吉田洋幸、吉田妙子、吉田祐樹、青木正江、高橋信子、茂川トヨ、福田智江子、際誠一、山際富美子、佐々木京子、野村孝之、野村正子、野村理津子、野村修子、中村肇、石田広三、鴻上修一、高橋敏雄、三浦樹一、桑本平八。

◇「北海道アドベンチャーインあさひかわ」参加者

田中館志郎、長尾あすか、山下和幸、山下知子、山下育子、磯聖、富井恵子、山崎真吾、山下真紀、沖田真理子、須藤裕美、佐野剛士、鈴木陸夫、鈴木一史、深沢将一郎、星野晃一郎、堀内淳郎、宮本尚保、亀川優貴、小倉雄介、飯塚純、餅田拓也、天城朋子、五十嵐圭、五十嵐綾、根岸智子、金田純、中村良平、石田良輔、大久保まさ美、福村陽子、福村磨理子

族、敗残兵など含む）は約八万人を超え、その約一割が北海道に連れてこられました。樺戸、空知、釧路を合わせても収容能力がおいつかないので、いわゆる動く監獄といわれたタコ部屋に押し込められ、北海道開拓のいしずえにされたのです。明治二十三年、網走監獄を創設したその起りは中央道（現在の国道三十九号線）を開くことにありました。

重罪人ばかり全国から集められ、網走川に架けられた鏡橋を渡った囚人は、再び生きて帰れない、といわれたそうです。旭川、網走間はまだ人跡未踏の地です。明治二十四年七、八月は小雨が降り続いたため、食糧の補給もままならず、栄養不足と過労が重なって死者が続出しました。当時は奇病と思われた脚気が全身にあらわれたためでありました。その苦しさに堪えかねて脱走する囚徒もあとを絶ちませんでしたが、山の中では逃げおおせようもなく、やがて捕まり、斬殺のみせしめにあいました。病いに斃れたものはそのまま道端に棄ておかれ、風雨にさらされ、百体程になると、まとめて道端に葬られました。それから長い間生い繁る雑草におおわれていた卒塔婆が昭和三十三年、地元民の手で発堀され、白骨化した遺体は丁重に火葬にされました。いましめられていた腰、足等の鎖も鎖塚に収められました。五年前に新築された現在の網走刑務所には、いまでは年老いた囚人などがヤバの風の冷たさに、わざと盗みを働いて舞い戻ってくるそうです。

五寸釘の虎造　二重施錠の扉、床板、天井板の中は十五センチ間隔の太い柱が組み込まれ、壁や板をはがしても容易に脱出出来ないはずでしたが、ここに一人の脱走犯、虎造がいました。彼はほかの監獄で二度の脱走に成功し、もう網走しかないというわけで送られて来たのです。

頭の良い彼は、毎朝の味噌汁を窓枠の鉄の桟と、手足の錠に少しずつかけてさびさせ、とうとう窓を破って天井の梁を伝わって脱出に成功しました。

飛び下りた時、足の甲に五寸釘をさしてしまいしかしそのまま夜の闇にまぎれ込んでしまいました。二年半後再逮捕されましたが、時の所長が情のあつい人であったため、この所長に迷惑はかけられないと、その後は模範囚で刑期を終え、以後自分の数奇な運命をテーマに一座を組んで上演して歩いたそうです。

天都山から　天の都にのぼるような心地がするところから天都山と名付けられた標高二百七メートルの山。山頂からは、オホーツク海、知床連峰、大雪の山並みまで三百六十度視界がひらけて見える山でした。頂上にはオホーツク流氷館があり、氷に閉ざされた部屋の中は零下四十度を越える寒さとか。

さて今夜の宿泊はホテル網走湖荘。北海道の豊饒な海の幸、ことにカニはもう本当にたくさん、というほど食膳にのぼりました。舟盛りのお刺身も見事で、雲丹、蟹、甘蝦、鯛、まぐろ、帆立貝ともう食べ切れない位。本場のビールを一気に呑み干しました。宴会では自己紹介を兼ねて最年長の村井与吉さんから。

村井与吉さん「私は明治四十三年一月六日生まれで満八十歳になります。旭川新橋のたもと、ウタリ集落の入口で生まれました。小学校ではウタリの人達とは一諸に勉強しませんでしたが、高等小学校では共に学びました。旭川商業に進み、その後上京し合同焼酎に入社、谷武雄さんが先輩だったので旭川会を作ろうということになり平岡敏男さんらと語らってこの会を創立したのです。」

関晃さん「今まで三回、参加しましたが、今回が一番良いように思います。限られた予算で大変なことでしょうが、今回は旭川市役所等から力添えがあったとも聞いております。」

山下喜代次さん「私は千葉県の生まれで旭川出身ではないのですが、吉田敏明さんのご縁で毎回出席させていただいております。一回目は礼文島、二回目は積丹、三回目は知床と、北海道の良さ、ひいては日本の良さをしみじみ感じていました」

快晴、午前九時、二日目の旅立ちです。網走水族館を見物しました。オホーツクの海の、のぞき窓です。北の海の珍しい生きものがいっぱい。次の網走原生花園では　はっきりいって期待はずれ、残りの花が一輪、二輪。淋しく咲いているだけでした。

知床観光センターでまたまた蟹の昼食をいただき、お土産を買ったりまとめて送ったりして、一時三十分とうとう念願の知床の岬に到着しました。ウトロ港から船に乗るのです。観光案内には地の果てと書いてありますが、それには少し賑やか過ぎるように思いました。藍と緑をねりまぜた深い深い海の色。この紺碧の海に白い航跡をしるしながら船は進みます。ゴメの群れが、舞い上り走り抜け引返し乱舞して、さながら人と島との饗宴をうたいながら私達の船に従って来ます。二時間足らずの周遊でしたがすっかり満足して次は知床五湖へ。さやさやと風の渡る木々の合い間をぬって散策路をたどって行くと、ひっそりと静かな佇まいを見せて最初の湖が私達を迎えてくれました。四時過ぎには知床第一ホテルに着いて温泉につかりました。

帰りのオホーツク海は鉛色です。オシンコシンの滝をもう一度バスの中から眺め、降ったり止んだりの雨の中を一路旭川空港へ。

（福原博子記）

第七回郷土訪問の旅参加者

（敬称略、順不同）

御手洗正夫、御手洗節、大城栄子、竹原茂雄、落合隆明、落合サヨ子、花輪元治、武田陽子、伊藤英子、福原博子、折登建憲、西田育子、須藤智恵子、本間敏弘、本間富美子、古川勝吉、亀井歓一、亀井さかえ、森基、森弘子、中山豊昭、中山多美子、伊塚清、伊塚幸子、伊塚幸絵、村井与吉、中村圭一、中村寿美子、福居信一、福居典子、福居信浩、福居沙織、加藤民次郎、片上照子、富田須美子、田中館一好、田中館和子、田中館久志、山下喜代次、山下華子、山下三佳子、増宮建三、増宮和枝、萩野敏夫、萩野みどり、小西孝一、小西和子、中島スミ子、林茂、廣瀬美津子、穴水鈴子、荒井知子、鈴木与之助、鈴木昌子、白川貴孝、笠原貞夫、柴田静子、関晃、吉田浩二、小須田富男、三浦久子、山田勝久、杉本哲男、浜名武治、廣瀬ヨシ子、阪本ケイ子、寺田慧美子、園城つる子、坂東幸子、坂東勝利、吉田洋幸、吉田妙子、吉田祐樹、青木正江、高橋信子、茂川トヨ、福田智江子、際誠一、山際富美子、佐々木京子、野村孝之、野村正子、野村理津子、野村修子、中村肇、石田広三、鴻上修一、高橋敏雄、三浦樹一、桑本平八。

◇「北海道アドベンチャーインあさひかわ」参加者

田中館志郎、長尾あすか、山下和幸、山下知子、山下育子、磯聖、富井恵子、山崎真吾、山下真紀、沖田真理子、須藤裕美、佐野剛士、鈴木陸夫、鈴木一史、深沢将一郎、星野晃一郎、堀内淳郎、宮本尚保、亀川優貴、小倉雄介、飯塚純、餅田拓也、天城朋子、五十嵐圭、五十嵐綾、根岸智子、金田純、中村良平、石田良輔、大久保まさ美、福村陽子、福村磨理子

郷土ニュース

ニュース提供：
旭川市東京事務所

本紙編集スタッフの一人が日本橋・高島屋の古書展をのぞいていたら、古い絵葉書の山積みのなかから、写真カットの「旭川師団通り舗装通り」を見つけて買い求めた。図柄から見てどうやら四條通りの交差点に立って駅方面を撮影したもの、左側に辻薬局の看板が読みとれ、右側は二階建ての堂々たる料理屋、三日月、その向うの三階建てビルはたしかマルカツ店――。じっと見つめていると「梅も桜も一時に咲いて春は目覚める旭川～」と唄った旭川小唄の昔が浮び上ってきた。一九九〇年は旭川開基百年、これは、昭和初期の絵ハガキらしい。

開基百年記念行事いっぱい

旭川市は、明治二十三年（一八九〇年）上川郡に旭川、神居、永山の三カ村が開らかれたことに始まり、平成二年に輝かしい開基百年を迎えます。この意義ある年に各種の記念事業が予定されています。

記念事業は、式典、行事、施設、郷土史料、その他の五つの柱によって構成されますが、このうち主なものを――。

［記念式典］九月二十日、大雪アリーナで、旭川の誕生百年を祝う出発の宣言、功労者の表彰、記念映画の上映など、各種の祝賀行事を行います。

［日本のまつり・旭川］八月十日から三日間、常磐公園とその周辺で青森市のねぶた、秋田県の竿灯、山形県の花笠まつり、徳島県の阿波おどりなどの芸能、祭りを招き、物産、縁日店とともに多くの人が参加。

［市民ふれあいフェスティバル］七月から八月に市内各所で市内各地域の方々の自主的な企画立案と運営により開催される地域のイベントです。

［記念施設］

［百年記念ホール（仮称）］歴史・文化資料館、記念ホール、多目的ホールの機能を合わせ持つ記念施設で、大雪アリーナの北側に建設される予定です。完成は平成五年度。

［河川公園の造成］川のまち旭川にふさわしい河川公園を旭橋の上・下流に造成します。完成は平成三年度。

冬まつり盛大に

旭川冬まつりは、平成元年二月の開催で早くも三十回月を迎えました。来年は、旭川開基一

老月さんの川柳入選

お灸の火派閥の前でもみ消され

夏と来て夏を連れ去る球児たち

最初の句は平成元年八年十日付の朝日新聞、次の句は八月三十日付毎日新聞にのった川柳。何れも旭川商業出の老月雅彦さんの入選作。「会社勤めをリタイアしたわが人生に川柳の楽しさは生きがいです」とおっしゃっていた。

○○年幕開けのオープニングセレモニーになるため、期間が二月七～十二日の六日間となり、また、会場も旭川橋下流の河川広場に常磐公園全面が加わり、一層ワイドになります。来年は、雪像数が七十基から百基になるほか、氷彫刻世界大会が開かれるので、氷彫刻も約二倍の九十基余りが展示されます。

また、「'90ふゆとぴあ・フェア」が同時開催され、積雪寒冷地の冬の生活を快適に過ごすための全国克雪・利雪見本市など、各種イベントが行われます。

国際バーサースキー大会

国内最大級のクロスカントリーと歩くスキーの集い「第9回旭川国際バーサースキー大会」が三月二十一日に開かれました。北欧からの招待選手を含め、一万一千六十五人が参加しました。小さな子どもを背負ったり、のぼりを持つ人など、思い思いに走り抜きました。

ミュージック・フェスティバル

平成元年八月七日に36度という、旭川地方気象台観測開始（明治三十一年）以来、史上最高の気温を記録しました。

こうした中で、第四回旭川ミュージックフェスティバル「ライブ・ジャム'89」が、七月三十日、江丹別若者の郷で開かれました。

ザ・スリー・ディグリーズやマリーン、さらには大橋純子など国内外の一流ミュージシャンが出演、会場は家族連れなど約八千五百人で埋まりました。

日本最大の自転車レース「ツール・ド・北海道」が10月３日に開かれた。

北海道縦貫自動車道

北海道縦貫自動車道は函館と稚内を結ぶ高速道路ですが、このうち現在は、登別―深川間が開通しています。深川―旭川間は開基百年を迎える九九〇年秋の開通をめざして、順調に工事が進められています。同自動車道が開通すると、旭川―札幌間が一時間半程度で結ばれることになり、旭川の産業や経済の一層の発展が期待されています。

韓国水原市と妹姉提携

十月十七日、旭川市と韓国の水原（スオン）市との姉妹都市提携・調印式が行われました。調印式には、水原市長・柳錫輔（ユソクボ）ら三十七氏が旭川を訪れ、友好の誓いを新たにしました。韓国のソウル市から南へ四十キロにある水原市は、人口五十四万人。農業を基盤に、最近では電子工業などの先端産業も発達しています。

昭和三十七年の米国ブルーミントン市、昭和四十二年のソ連ユジノサハリンスク市（友好都市）に続き、旭川市では3番目の国際親善提携となった。

海外の新聞に出た旭川

東京旭川会の皆さんの知らないところで、ふるさと旭川の国際化が進展している。米国サンフランシスコで発行の日英両語の日刊紙『北米毎日新聞』と『日米時事』に旭川の紹介がドーンと出ていた。さらにハワイの邦字紙『パシフィック・プレス』と『イースト・ウエスト・プレス』にもホノルルで毎年夏に開催される「旭川展」が紹介されていた。

『北米毎日新聞』によると一九八六年に三絃家元の菅野孝山氏と司会書・あづまじゅん一氏がサンフランシスコ日系社会の呼びもの「桜まつり」に自費参加したのがはじまり。これがきっかけとなり、平成元年四月には金森耕造旭川観光協会長を団長にミス旭川の林亜希子さん、西崎流静代社中、孝山会の二十六人が「桜まつり」に特別参加して旭川のPRと国際交流を深めた。

一方のハワイでも邦字紙のほか日本語ラジオのKOHO放送から佐藤圭男支配人（函館出身）が来日、旭川を訪れている。同支配人は「KOHOの大下治心社長と三原幸雄旭川市議が知りあいなので旭川展放送のスポンサーをお願いしています。やはり売れ筋は特産の家具のようです」と語っていた。

（カットは『北米毎日新聞』）

HOKUBEI ㊋ MAINICHI

100年に向けて

～自然と文化の調和～

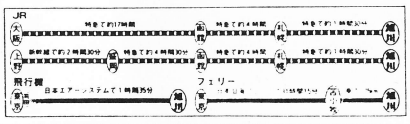
旭川 日系コミュニティーの交流

東京から飛行機で約一時間半、北海道のほぼ中央部にあたる旭川市は明治二十二年（一八九〇年）上川郡に旭川、神居、永山の三村が置かれたことに始まる。現在の人口は三十七万人、札幌に次ぐ北海道第二の都市だ。雄大な大雪山連峰を東に望み、周囲を丘陵に囲まれた美しい街。市の中央には石狩川が横たわり、大小合わせて百七十にも及ぶ川が市内を縫う。橋も、市民の橋として愛されている旭橋をはじめ大小七百二十にのぼる。市内の通りは碁盤の目に整備され、メインストリートであるJR旭川駅前から北に延びる日本初の恒久的歩行者天国、平和通買物公園には デパート、コーヒーショップなど色とりどりの店舗が立ち並び市民の憩いの場になっている。また通りのあちこちには旭川出身の彫刻家、中原悌二郎らの作品が建ち、通行く人の目を楽しませてくれる。また市内各所には旭川美術館、開拓の歴史と生活文化を伝える旭川博物館、旭川兵村記念館、川村カ子トアイヌ記念館、そして北海道の四季を一枚の布に織り込み、世界的に知られている優佳良織工芸館、隣接する日本初の国際染織美術館など、歴史と文化、工芸を伝えるさまざまな施設がある。

近郊には日本最大の面積を誇る山岳国立公園、大雪山国立公園があり、主峰旭岳を中心に黒岳、十勝岳を含む二十三万ヘクタールの広さは、まさに北海道の屋根というにふさわしい。その山々のふもとにはいくつもの温泉が湧き、層雲峡温泉を代表するたくさんの温泉宿を形づくっている。

旭川市とサンフランシスコ日系コミュニティーとの交流は、菅野孝山氏、三絃家元、とあづまじゅん一氏、司会業、の二人が三年前に自費で参加したなまつりがはじまり。アメリカ人と日系人に是非ともと三味線や民謡などの伝統芸能を聞いてもらいたいと思ったのがきっかけだった。今年の桜まつりには金森耕造・旭川観光協会会長を団長にミス旭川の林亜希子さん、西崎流静代社中と孝山会のメンバー二十六人が参加するまでになり、小さいながらも、ここに日米交流の小さな輪が広がった。小さな輪は民間レベルでの交流の大切さを知らせてくれると共に私たちが出来る役割りも何かあるはずと教えてくれた。来年の八月に開基百年を迎える旭川の自然とロマンを紹介する安藤嘉之

あさひかわ タウンガイド
Asahikawa Town Guide



第2回交歓ゴルフ・コンペ

東京旭川会と故郷旭川との第2回交歓ゴルフ大会は八月二十五日、大雪山カントリークラブ西コースで行われました。参加者三十一人、私がご一緒した旭川の方は、ニュー北海ホテルの社長さんでしたが、その方は、偶然にも私の旭川東高時代の親友と碁仇ということでした。そのほか、東京旭川会の笠原貞夫さんと森基さんがご一緒でしたが、このお二人ともゴルフがお上手なうえにドライバーの飛距離に目を見はるものがありました。多分、年令からいえば私が一番若いかと思いますが、わがドライバーの飛距離たるや全くさびしい限りで、プレイ中、小さくなっていたことが思い出されます。

ゴルフが終ってから賞品をもらうことも楽しみの一つですが、私がいただいたのは、優勝や準優勝の賞品ではなく参加賞です。これが鮭のふりかけで、その心くばりに恐縮しました。

旭川でのゴルフは、東京でやるゴルフと違って、ゴルフ場が近いことと、暑くても湿度が低いためにあまり汗をかかずにプレイできることがなによりと思いますが、スコアのことは二の次にして、見上げた大雪山の勇姿は、ゴルフの醍醐味を充分に味わせてくれました。

（竹原茂雄記）

東京旭川会故郷交歓ゴルフ大会成績表

PLAYER	OUT	IN	GROSS	H.C.P	NET	RANK	備
笠原　貞夫	43	47	90	14.4	75.6	8位	
上牧　道雄	48	49	97	20.4	76.6	10位	
竹原　茂雄	54	55	109	31.2	77.8		
森　　基	46	48	94	14.4	79.6		
御手洗正夫	53						
森　弘子	58	53	111	31.2	79.8	N.P⑬	
伊塚　清	77	60	137	40	97		大波賞
木村　晃久	56	52	108	30	78		
畠山　五郎	43	44	87	14.4	72.6	準優勝 B.G	東京旭川会長賞
斉藤　吉雄	55	52	107	25.2	81.8		小波賞
荒木　建二	69	54	123	32.4	90.6	D.C⑮	
水本　昇三	46	47	93	19.2	73.8	2位	
内田　政治	45	47	92	18	74	3位	
佐々木憲一	52	49	101	24	77		小波賞
菅ヶ谷金次	63	57	120	36	84		
野沢　等	48	52	100	24	76	9位	
山口　信吉	43	54	97	22.8	74.2	5位	
松永啓二郎	50	44	94	16.8	77.2		
野村　孝之	64	62	126	40	86		
指田　幸三	46	46	92	20.4	71.6		平和賞・旭川市長賞
水本　慶一	44	44	88	10.8	77.2		平和賞
井岡　利夫	52	48	100	26.4	73.6	1位	
指田小枝子	45	49	94	16.8	77.2		
野田　哲男	49	47	96	16.8	79.2		
阿部　嘉之	49	44	93	13.2	79.8		
鷹野美弥雄	44	43	87	12	75	6位 B.G	
寺島　由浩	54	49	103	27.6	75.4	7位	
足立　兼嘉	48	56	104	30	74	4位	
桜木　稔	50	54	104	25.2	78.8		
佐藤　文治	64	68	132	40	92	D.C⑨ B.B	
佐伯　忠史	62	68	130	40	90		

事務局日誌

（63・9・1～平成1・8・31）

▽9・16＝第1回実行委員会▽9・26＝会計監査▽10・5＝第2回実行委員会兼行事委員会▽10・7＝第1回幹事会（第12回総会・懇親会中止決定）▽10・17＝総会懇親会中止案内、会員に発送▽10・28＝編集委員会▽11・12＝親睦委員会（観劇案内発送）▽10・17＝広報委員会（座談会）▽10・30＝郷土訪問委員会▽12・13＝郷土訪問委員会▽12・13＝編集委員会▽平成元年1・18＝親睦委員会▽1・26＝第2回幹事会▽1・28＝ふるさと会連合会交礼会出席▽2・12＝全日本綱引選手権大会応援（女子「旭川BL」二連覇）▽2・15＝会報「ななかまど」第11号発行▽3・29＝郷土訪問委員会▽4・14＝郷土訪問委員会▽4・22＝ふるさと会連合会総会出席▽4・25＝第3回幹事会▽5・2＝郷土訪問委員会▽5・15＝郷土訪問委員会（案内状発送）▽7・11＝郷土訪問委員会▽8・1＝郷土訪問委員会▽8・21＝郷土訪問委員会▽8・24＝郷土訪問の旅・「北海道アドベンチャーインあさひかわ」出発、御手洗団長他121人。

昭和六十三年度収支決算

（収入の部）

繰入金	七六二、一四四円
年会費	六六六、五〇〇円
名簿売上代金	七、〇〇〇円
雑収入	二、二五五円
合計	一、四三七、八九九円

（支出の部）

印刷費	三七三、三三六円
通信費	二一一、八三八円
会議費	一二五、六二〇円
交際費	九八、二一〇円
事務費	五五、〇〇〇円
手数料	一九、八七六円
雑費	八、六二〇円
支出計	八九二、五〇〇円
繰越金	五四五、三九九円
合計	一、四三七、八九九円

昭和六十三年八月三十一日

以上の会計事項について監査の結果、適正に処理されているものと認めます。

平成元年九月四日

監事　黒崎　弘　㊞

南　栄二　㊞

お願い

市販本、非売品を問わず会員各位の出版された書籍を紹介しますので皆さまからの提供をお待ちします。

◇ご寄贈を　こころから感謝します

旭川市長、旭川市議会議長、旭川商工会議所会頭、旭川観光協会長、旭川地方卸売市場、旭川バーサースキー大会実行委員会、高砂酒造、男山、旭川ターミナルホテル、第一梅屋、毎日新聞社、高島屋、合同酒精、サッポロビール、大心堂雷おこし、日本エアシステム東京支店、ニッカウイスキー、十勝、日立電線、セーキ、大城印刷、オートクチュール伊藤英子、薬日本堂、田村縫工、朝日金庫店、東京美装興業、吉田敏明、大城栄子、松原利治、福原博子、矢木茂昭　（順不同）

◇祝電

北海道倶楽部理事長・高秀秀信、男山・山崎興吉、旭商同窓会会長・今井重登　（順不同・敬称略）

▽お悔み

小関尚志殿（一・四・一二）

村上茂利氏（むらかみ・しげとし）平成元年十一月二十日、肺炎のため小平市の昭和病院で死去。七十一歳。葬儀は二十二日、久留米市大空会館で。喪主は美代夫人。北海道遠別出身、旭川中、中大法卒。労働事務次官、北海道二区から当選三回、皇太子時代の天皇陛下に書道を教えた。次回の衆院選に出馬準備中で東京旭川会のゲスト・メンバーだった。

編集後記

▽昭和天皇ご不例で前回の総会とパーティーは中止となった。二年ぶりの総会で盛り上りを見せたが、若手がもっといていい。1月18日、八木会長方の会議室を借用して開催の編集委でも話題に。結局は人と人とのつながりが第一という結論になった。

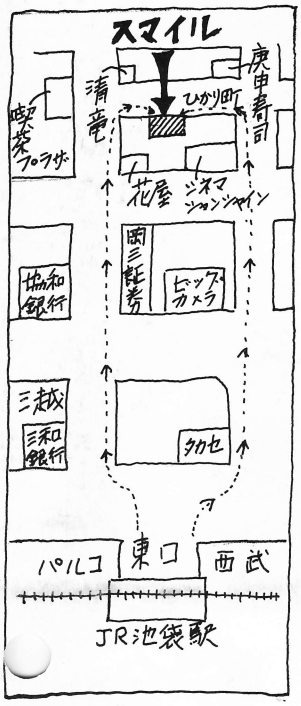
▽東京の10チャンネル（テレビ朝日）で11月18日、「北の国の記者たち、温度差50度を生きる街」というドキュメントが放映された。ナレーターは俳優の森本レオ。六年前、旭川で創刊された『日刊旭川新聞』の記者活動を通して旭川というローカル都市の抱える諸問題をドキュメント・タッチで展開する。水神竜王神社の妖刀（生神体）が出てきたり、一年生が一人しかいない就実小学校や「はまなす国会」など様々な故郷旭川のカオが出た。しかしこの作品の狙いは何なのか、いま一つ判きりしない。ただ、行政主導でないと動かない明治以来の郷土の体質に、若い記者たちは強く批判していた。自主独立のないところにオリジンは生まれない。

▽旭川を訪れた子供たちの作文集を旭川市婦人少年室が発行した。この作文は本紙に掲載する予定だったが、全文を収録してあるので再録をとり止めた。ご了承を願いたい。毎号送っていただいている市広報誌の『旭川市民』を拝見しているが、家人曰く、「開基百年、国際交流はわかりますが、『旭川市民』にし尿くみ取り予定表〝がぎっしり。この辺はどうなっているの」と訊ねられいささかギャフン。「そういっても東京も非水洗地域が目立つので、五十歩、百歩だが、文化とは、文明とは何かを問われたみたいだな」というのが精いっぱい。国際交流は大いにけっこうなのだが……。(2)

▽本紙の編集スタッフ＝桑本平八、田村昌士、大久保藤次郎、須藤智恵子、伊藤一男、橋本裕子、高橋文子。

トウキョウの中のあさひがわ

将棋酒場の「スマイル」



将棋を楽しみながらお酒が飲める珍しい店。女主人仁科博子さんは旭川市神居町生れ、道立旭川高女出身で将棋雑誌にも毎月掲載されている強豪。将棋盤、カラオケあり。将棋のできない人も集る。ビール、つまみ二品つき千五百円で楽しめる店。

◆ところ＝池袋駅東口より徒歩六分　豊島区東池袋一の一四

◆営業時間＝土曜日、日曜日、休祭日は休み、夕方五時三十分から十二時まで

◆電話〇三―九八七―五九一七